

FY2026

決算説明資料

ハンワホームズ株式会社（275A）

INDEX

1

会社・事業概要

2

決算概要

3

セグメント別：空間創造事業

4

セグメント別：DEPOS事業

5


業績予測



ハンワホームズ株式会社

Hanwa Home's Co., Ltd.

代表取締役社長	鶴 厚志
住所	大阪府泉南市幡代3丁目838-1
設立年月日	平成6年7月14日
資本金	84,275,400円
従業員数	46名(2026年2月20日現在)
業務内容	建設業（一般戸建、集合住宅、商業施設等の屋外空間の設計施工） 卸し・小売業（ガーデン雑貨・屋外家具・DIY工具）



**ハンワホームズ株式会社は、2025年11月17日、
名古屋証券取引所ネクスト市場へ上場しました。**

私たちは「感動に出会う空間」と「安らぎ続く暮らし」の提供をミッションに掲げ、住環境における様々な課題を解決できる企業として成長を目指しております。今後も、魅力的な空間がもたらす「感動」と「安心」の可能性を信じ、事業を通じた社会貢献をお約束致します。

そして、業界の前例にとらわれず当社らしい経営を実践する事により、社会に新しい価値を提供してまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Mission 「感動に出会う空間」と
「安らぎ続く暮らし」の提供

佇まいが、訪れた瞬間の期待を高める。
迷いのない動線が、滞在の質を整える。
光と素材が、品質の基準を引き上げる。
移ろう時が、記憶に残る表情を育てる。

Vision 住環境におけるあらゆるニーズに応え、
人々の暮らしを充実させる企業

私たちは、こうした体験価値を設計し、「空間」で確かなかたちにします。

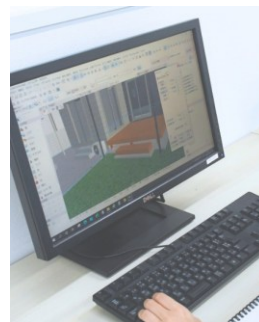
対象は住宅に限りません。商業・宿泊・企業施設から公共領域まで。
人が暮らし、集い、過ごすすべてを「住環境」と捉え、
同じ設計思想で向き合います。

Value 「挑戦」「実行」「公益志向」

空間が人の動きや日々の選択を変え、
やがて街や社会へと波及し、価値の循環を生み出す。
私たちは、その「変化の起点」をつくり続けます。

“**屋外空間**”を対象に、
企画・設計・調達・施工を
ワンストップで提供

単なる工事請負や小売にとどまらず、空間の価値を最大化する
総合ソリューションカンパニーとして事業を展開。



企画設計



施工



家具調達/演出



管理/運営
(PPP・PFI)

提供領域

土地造成/インフラ整備

整地・擁壁・排水などの造成工事
給排水・電気・ガスなどライフラインの配管
高低差や狭小地、変形地等の基盤づくり

一般戸建の外構工事

外構一式工事（門柱・駐車場・フェンスなど）
設備工事（照明・防犯カメラ・EV充電器など）
アウトドア空間の演出、利活用提案

商業施設の屋外演出/整備

動線・駐車場整備工事（舗装・誘導計画など）
演出設置工事（照明・植栽・サインなど）
滞在空間整備工事（屋外家具・ファサード演出など）

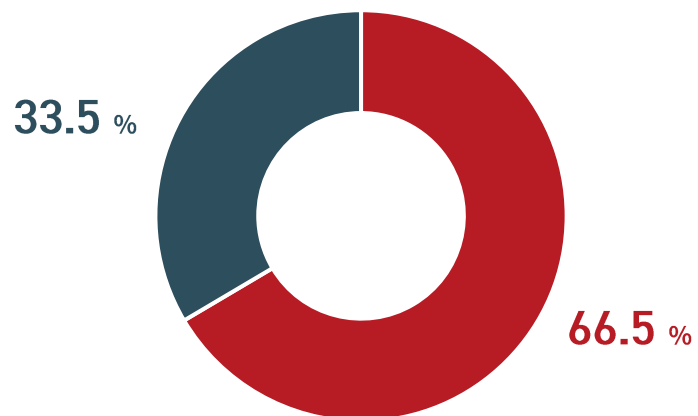
公共空間の屋外演出/整備

公園・広場整備工事（舗装・ベンチ・植栽など）
Park-PFIや官民連携、街の魅力向上に資する提案

相互補完する2つの事業セグメント

高付加価値な「空間創造」と、安定した基盤を持つ「DEPOS」の2軸で事業を展開。

売上高構成



■ 空間創造事業部	158,067	万円
■ DEPOS事業部	79,679	万円

売上総利益構成



■ 空間創造事業部	42,168	万円
■ DEPOS事業部	39,318	万円

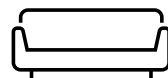
顧客に選ばれ続ける理由

「屋外空間」に特化した統合型モデルが独自の価値を生み出します。



適正工期×適正コスト

工事を一貫して担い、部材も自社調達。工程ロスと中間コストを抑え、高品質なサービスを競争力ある価格で提供します。



図面から家具まで

建設から家具コーディネートまで一体で設計し、統一された世界観を持つ空間を提案します。



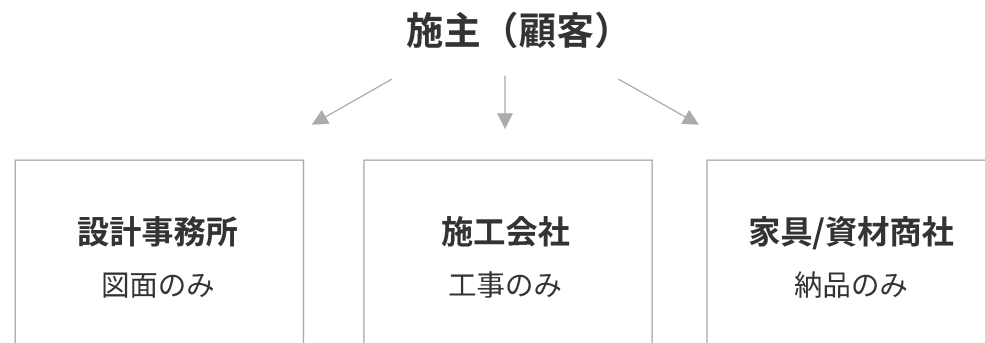
空間価値を最大化

動線・視線・昼夜の見え方まで設計。統一感のある仕上がりで満足度を高め、運用・維持管理の負担も抑えます。

ビジネスモデルの違いが生む構造的優位性

設計・施工・調達を統合することで、従来の建設プロセスにおける非効率を解消

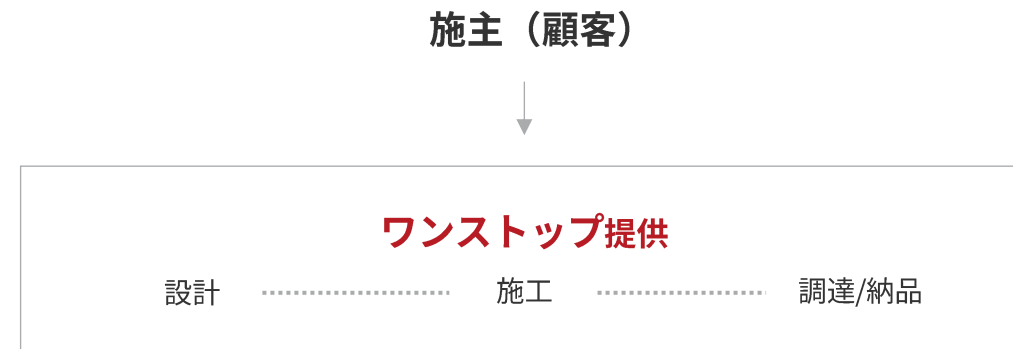
従来モデル（分断型）



構造的な課題

- 業者間の調整コスト
- 中間マージンの多重発生

当社モデル（統合型）



短工期

一貫した
品質管理

適正コスト

多岐にわたる空間創造実績

住宅から公共空間まで、あらゆる屋外空間の価値を最大化

一般戸建外構工事



中高価格帯の邸宅を中心に、建物と調和した植栽・照明計画を含むトータルデザインを提供。

集合住宅・商業施設の屋外工事



ホテルの付加価値を高めるテラス空間や、商業施設の集客力を向上させる屋外広場を設計・施工。

公共工事・Park-PFI※事業



安全性と維持管理コストを考慮した公共空間の整備。地域の回遊率向上や雇用の創出を行い、街のにぎわいを設計。

ライフサイクル全体で収益機会を最大化

「作るだけ」で終わらせず、維持・更新の循環サイクルにより中長期の安定収益を確保

中長期的な安定需要

1

新設・整備

CREATION

- | 企画・設計・施工（住宅／商業／公共）
- | 家具・資材の調達／一括納品

収益性：高付加価値 フロー型

2

維持管理・アフター

MAINTENANCE

- | 保守点検・修繕・メンテナンス
- | 追加提案（家具入替・追加等）

収益性：安定 ストック型

3

更新・再生

RENEWAL

- | リニューアル／体験価値向上
- | 老朽化更新・性能改善

収益性：中～高利益 アップセル型

2026年2月期

決算概要

FY2026 実績

業績ハイライト

売上高

237,747 万円

前年同期比

127.4 %

営業利益

11,508 万円

前年同期比

605.2 %

TOPICS

01

法人案件施工件数、
法人取引件数の増加

02

Park-PFI施設運営を行う
合併会社の設立

03

SNSフォロワー数
合計5万人到達

TOPICS

01

**法人案件施工件数、
法人取引件数の増加**

当期法人案件施工件数22件、総売上高の44.1%の売上比率まで増加。DEPOS事業法人取引先累積件数685件（前年同期比137.0%）と2025年2月期末から185件増となった。

02

**Park-PFI施設運営を行う
合併会社の設立**

大阪府のPark-PFI事業「りんくう公園（中地区）」を運営する合併会社を設立。なお、当該子会社は重要性の乏しい、非連結子会社であるため、当事業年度においては連結財務諸表を作成していない。

03

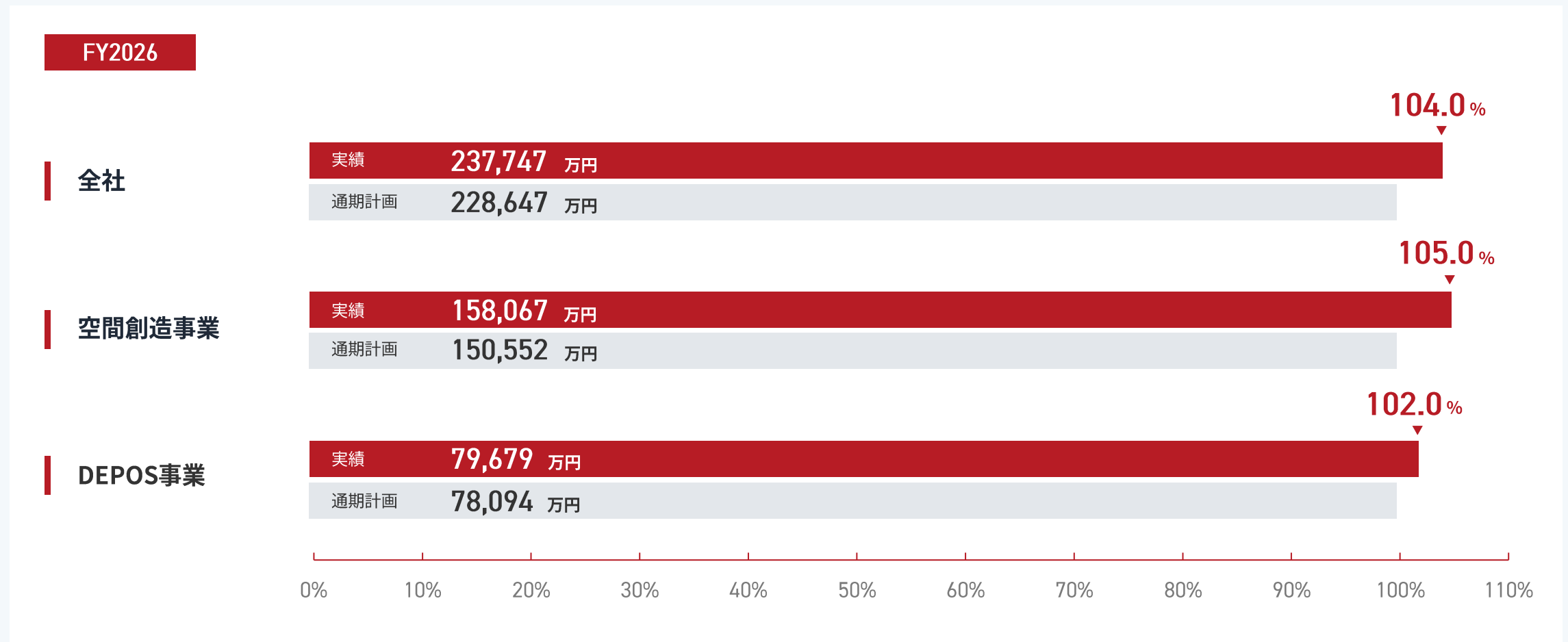
**SNSフォロワー数
合計5万人到達**

SNSフォロワー数、ハンワホームズ、DEPOS合計5.0万人（前年同期比219.7%）。引き続きSNS戦略を強化し、フォロワーの獲得、収益へとつなげる。

法人案件が順調に推移したことにより売上高237,747万円（前年同期比127.4%）、営業利益は11,508万円（前年同期比605.2%）と大幅増益。

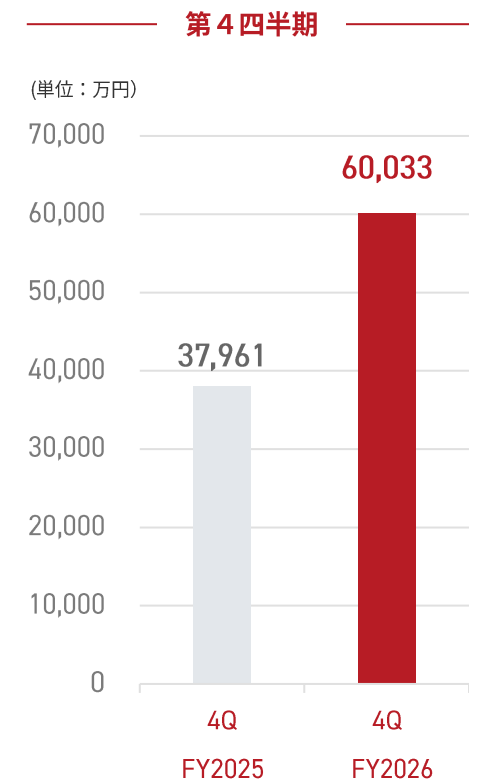
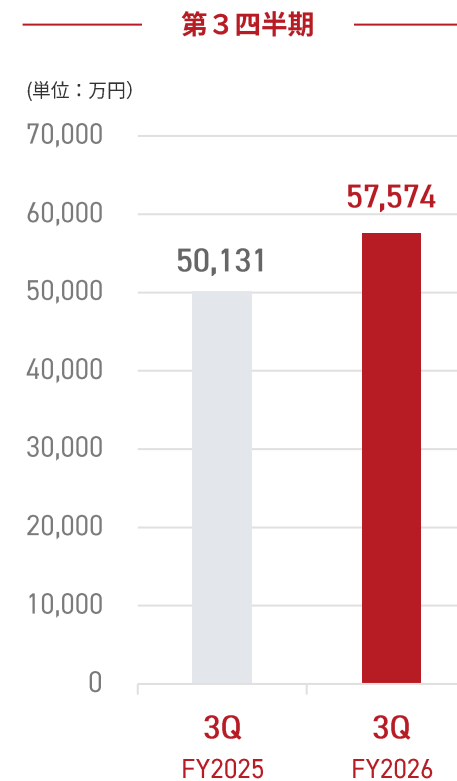
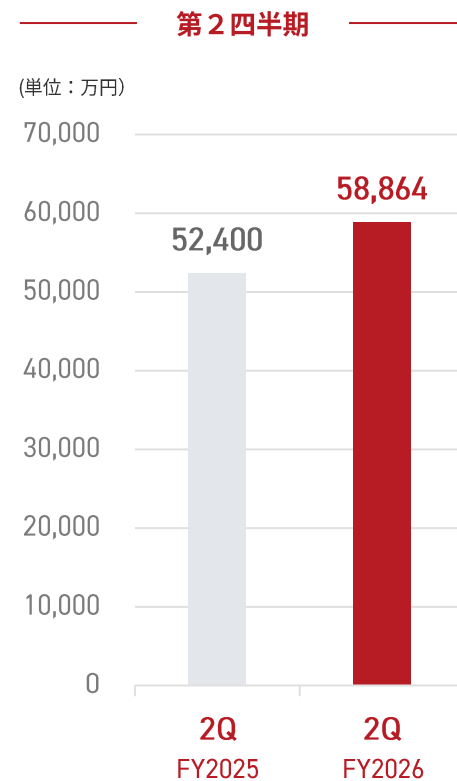
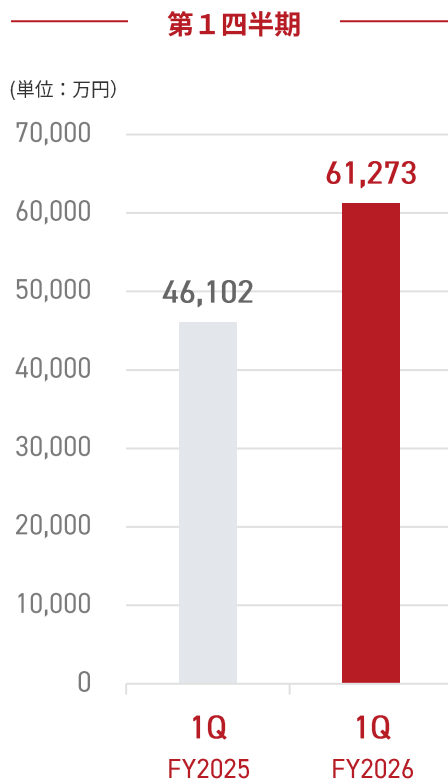
(単位：万円)	2026年2月期	売上対比	2025年2月期	前年同期比
売上高	237,747	100%	186,596	127.4%
売上原価	156,260	65.7%	121,324	128.8%
売上総利益	81,487	34.3%	65,271	124.8%
販売費及び一般管理費	69,978	29.4%	63,370	110.4%
営業利益	11,508	4.8%	1,901	605.2%
経常利益	10,343	4.4%	1,711	604.2%
当期純利益	6,877	2.9%	1,217	565.1%

売上予算に対して、全社、各事業部共に法人案件増が寄与し予算達成。



四半期売上高も毎四半期成長

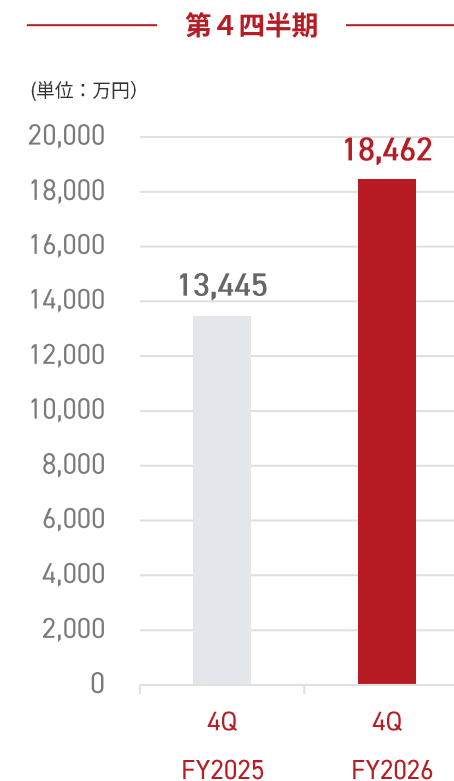
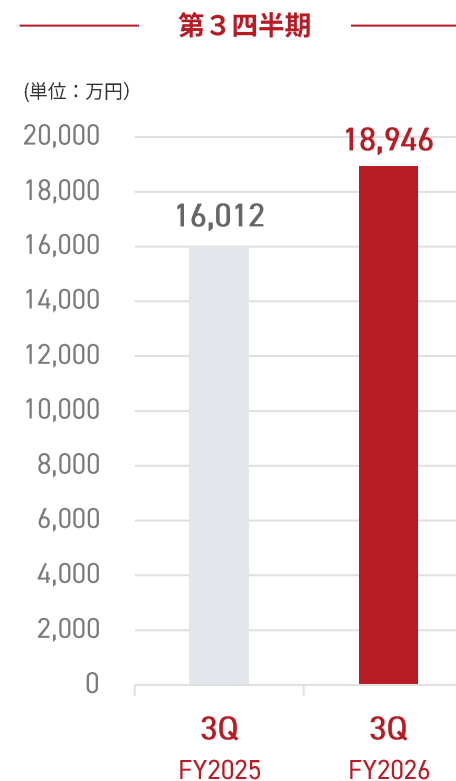
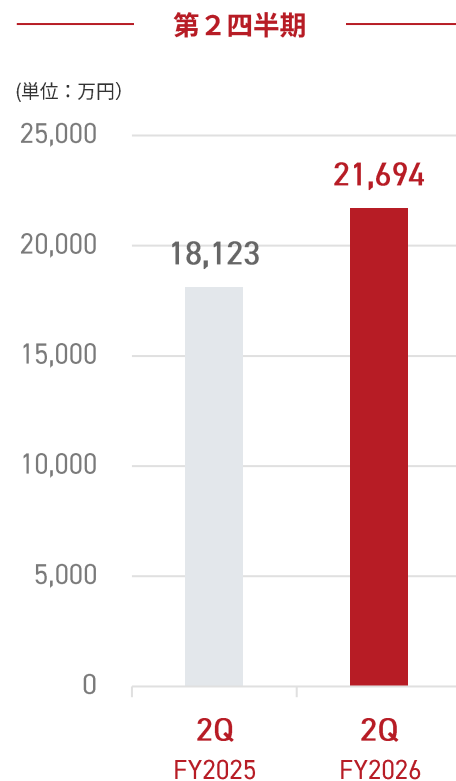
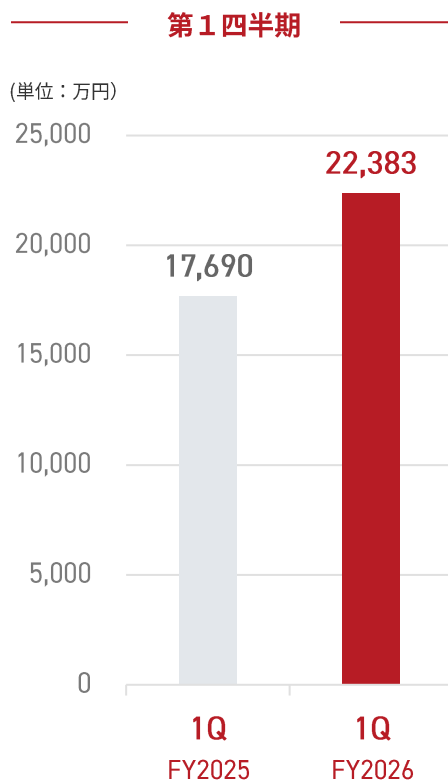
毎四半期で前年同期比100%を上回り推移。当四半期売上高60,033万円（前年同期比158.1%）となった。



※四半期財務諸表を作成していないため、2025年第1四半期の数値は参考値です。

売上高成長による売上総利益の増加

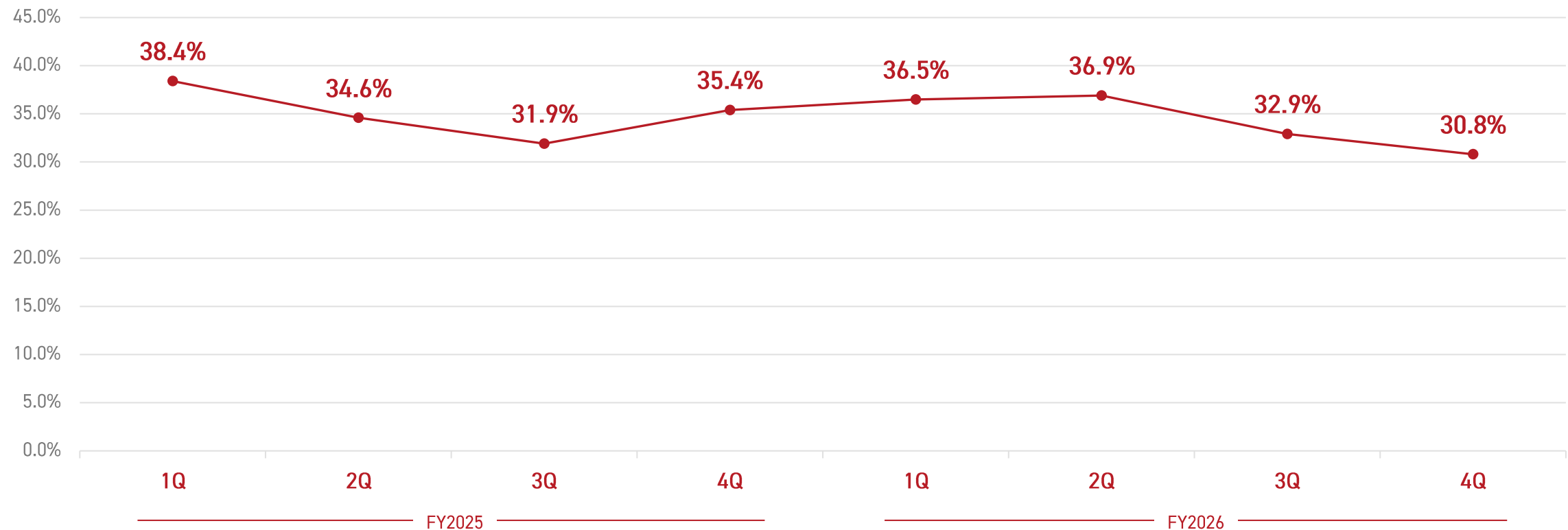
法人案件の増加による売上総利益は増加しており、当四半期では18,462万円（前年同期比137.3%）となった。



※四半期財務諸表を作成していないため、2025年第1四半期の数値は参考値です。

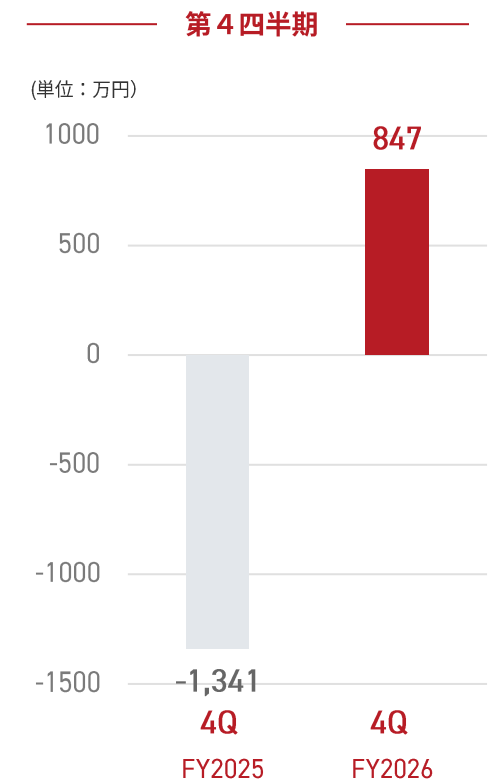
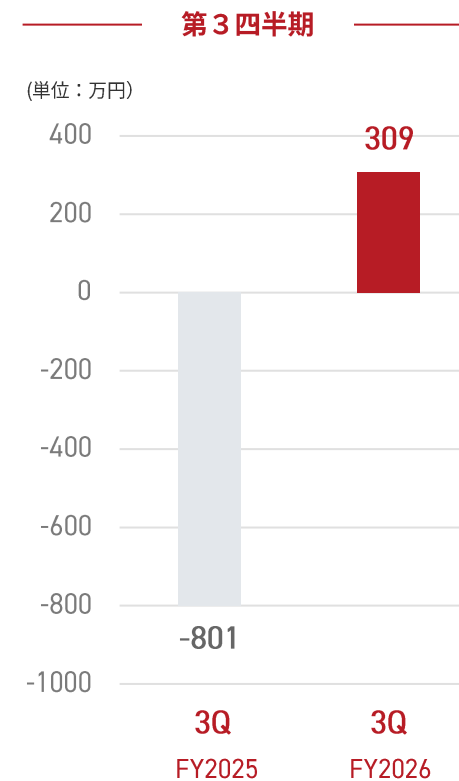
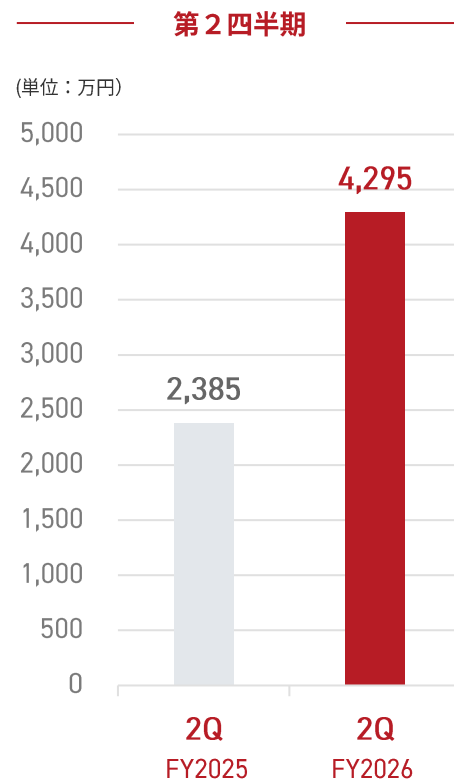
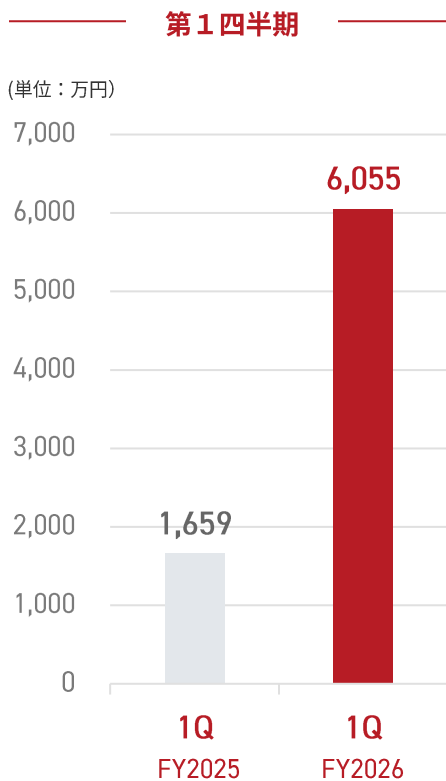
売上総利益率は前年同程度を推移

売上総利益率は前年同程度で安定的に推移。急速な売上拡大局面においても収益性を維持できるよう、原価コントロールを今後も継続的に徹底。



法人案件強化・販売管理費の抑制を進め、営業利益改善

従来的一般戸建中心の施策から、法人施策強化へと事業転換したことに加え、広告宣伝費の適正化等販売管理費の継続した見直しを行ったことで当四半期営業利益は847万円（前年同期は四半期営業損失1,341万円）となった。

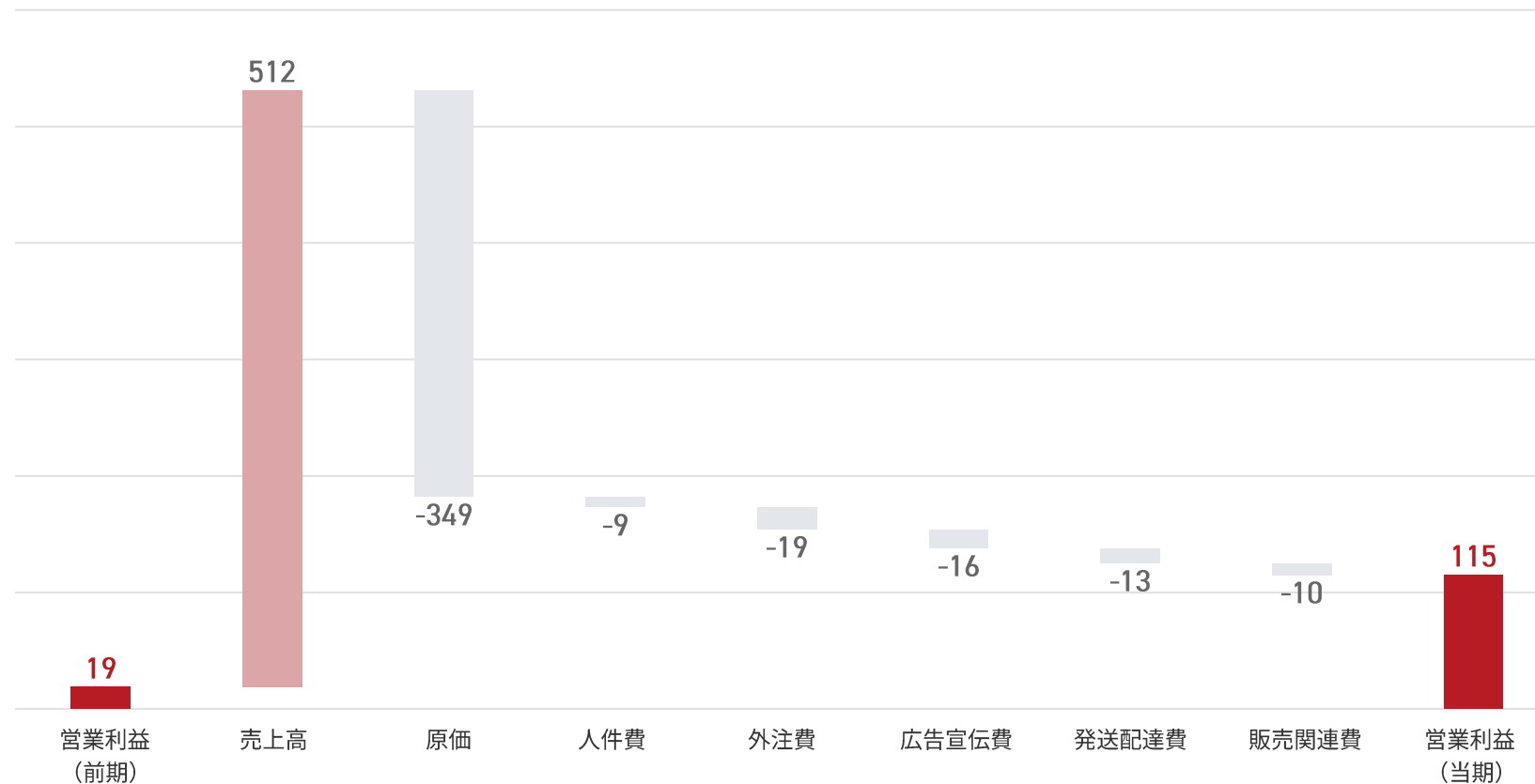


※四半期財務諸表を作成していないため、2025年第1四半期の数値は参考値です。

売上高の増加と販管費の減少が営業利益を押し上げ

法人案件の受注により売上高は増加。一方で、建築資材の高騰や輸入仕入商品の円安影響により売上原価が増加したが、法人案件増加に伴う発送配達費等の減少に加え、業務効率化を進めたことによる人件費率の減少により、販売費及び一般管理費は減少した。

(単位：百万円)



上場の公募増資による資本金増加と黒字化に伴い、自己資本比率が6.0%▶17.1%に改善

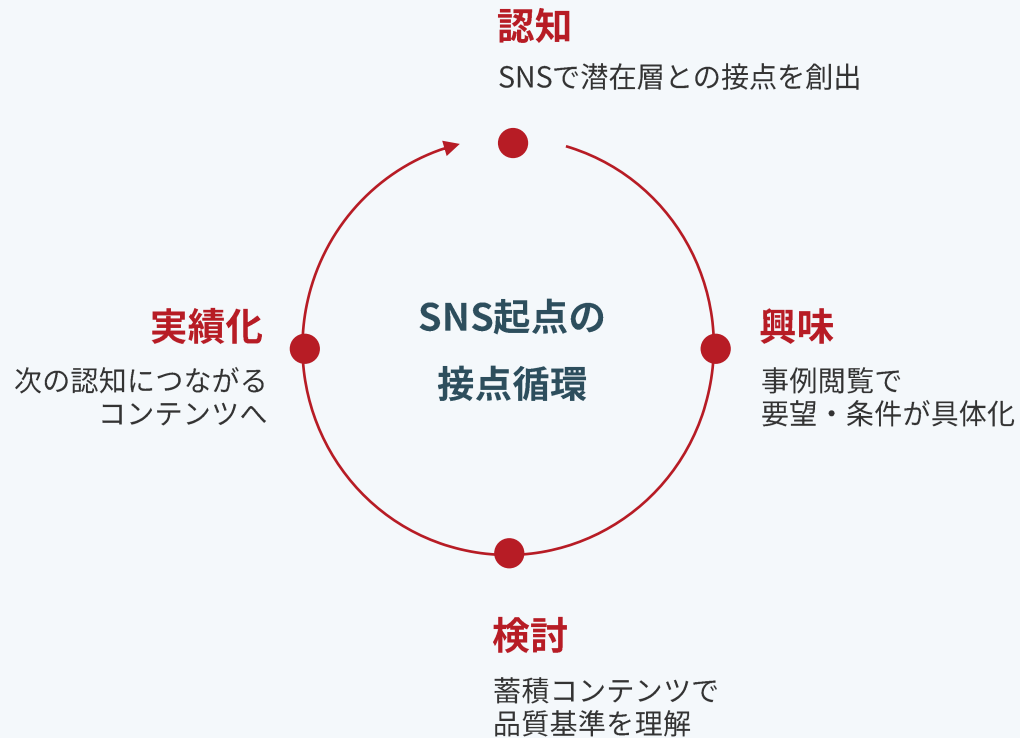
科目 (単位: 万円)	2025年2月期	2026年2月期		2025年2月期	2026年2月期
流動資産	56,220	105,485	流動負債	58,374	76,676
うち、現預金	19,529	18,419	うち、買掛金	2,451	1,733
うち、売掛金	6,375	9,719	うち、工事未払金	8,650	17,757
うち、完成工事未収入金	5,166	7,751	うち、短期借入金	30,000	35,000
うち、契約資産	7,416	47,718	うち、1年内返済長期借入金	4,584	7,914
うち、商品	14,142	17,114	うち、契約負債	3,254	2,762
固定資産	32,266	29,850	固定負債	24,765	35,579
うち、有形固定資産	25,378	25,136	負債合計	83,139	112,256
うち、無形固定資産	2,585	1,998	株主資本	5,346	23,079
うち、投資その他の資産	4,302	2,715	純資産合計	5,346	23,079
資産合計	88,486	135,335	負債純資産合計	88,486	135,335

法人案件増加により営業CFは減少した一方、運転資金の拡充のために金融機関から長期借入による資金調達したことで財務CFが増加したことにより、現金及び現金同等物の期末残高は13,621万円（前年同期△798万円）となった。

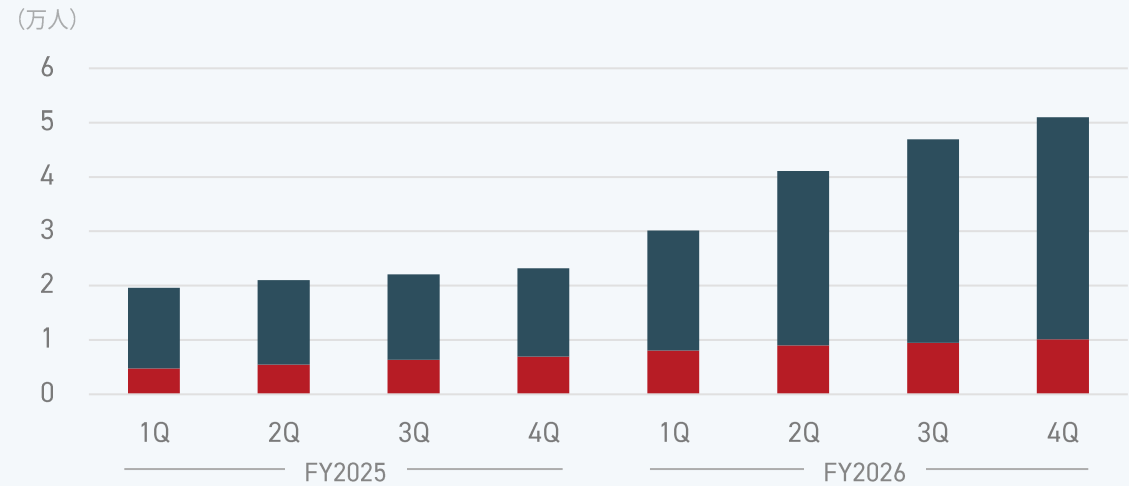
(単位：万円)	2025年2月期	2026年2月期	増減額	当事業年度の主な要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,001	△29,743	△34,745	<ul style="list-style-type: none"> ・税引前当期純利益 +10,411 ・仕入債務の増加 +7,543 ・売上債権及び契約資産の増加 △46,231 ・棚卸資産の増加 △2,971
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,021	△1,053	△31	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 △1,549 ・定期預金の預入による支出 △585 ・敷金及び保証金の差入による支出 △257 ・定期預金の払戻による収入 +900
財務活動によるキャッシュ・フロー	96	29,998	29,901	<ul style="list-style-type: none"> ・長期借入金による収入 +20,000 ・株式の発行による収入 +10,855 ・短期借入金の純増額 +5,000 ・長期借入金の返済による支出 △5,584
現金及び現金同等物の期末残高	14,419	13,621	△798	

SNS合計フォロワー数5万人（前年同期比219.7%）。引き続きSNS戦略を強化し、フォロワーの獲得、収益へとつなげる。

SNS起点の顧客接点サイクル



Instagramフォロワー数



DEPOS公式 (@depos_2016)	ハンワホームズ公式 (@hanwahomes)	合計
約 4 万人	約 1 万人	約 5 万人

2026年2月期

空間創造事業

FY2026 実績

セグメント業績ハイライト

売上高

158,067 万円

前年同期比 **139.8** %

売上総利益

42,168 万円

前年同期比 **157.1** %

営業利益

14,498 万円

前年同期比 **414.1** %

TOPICS

01

法人案件の受注拡大で売上成長、収益構造も改善

法人案件の受注増による売上伸長に加え、法人案件に注力した営業戦略が奏功し、収益構造が大幅に改善。

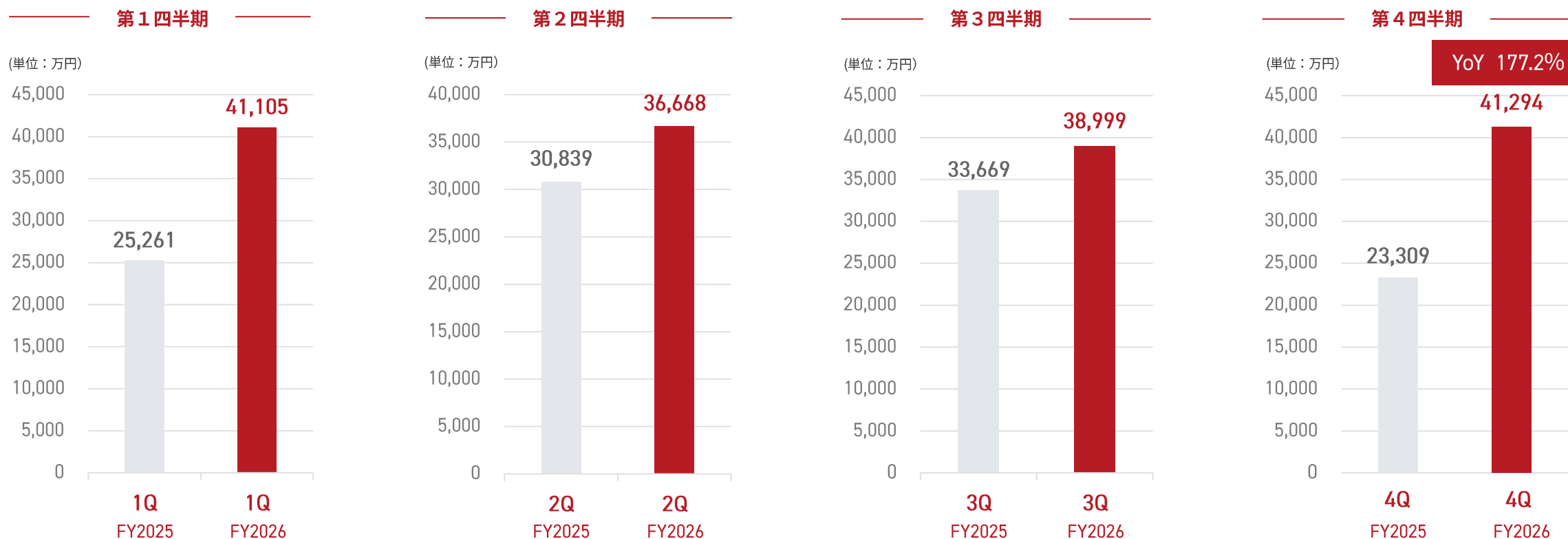
02

利益成長が加速

売上高は前年同期比139.8%、売上総利益は157.1%、営業利益は414.1%と、利益面の伸びが売上を上回る形で推移。

法人案件の増加により当事業年度売上高は前年同期比139.8%

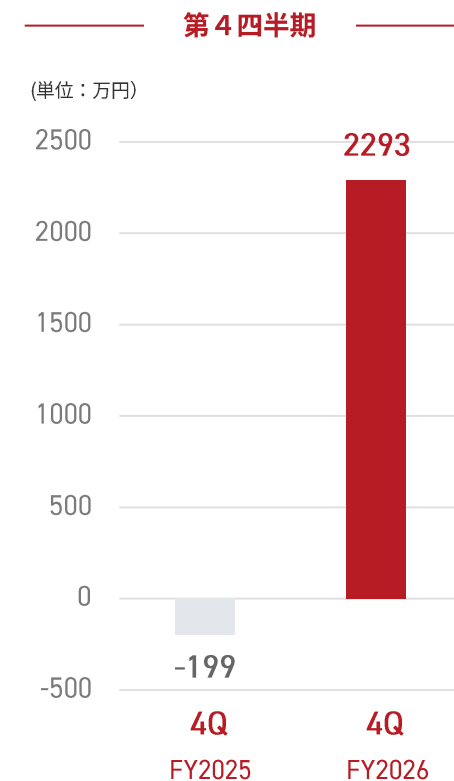
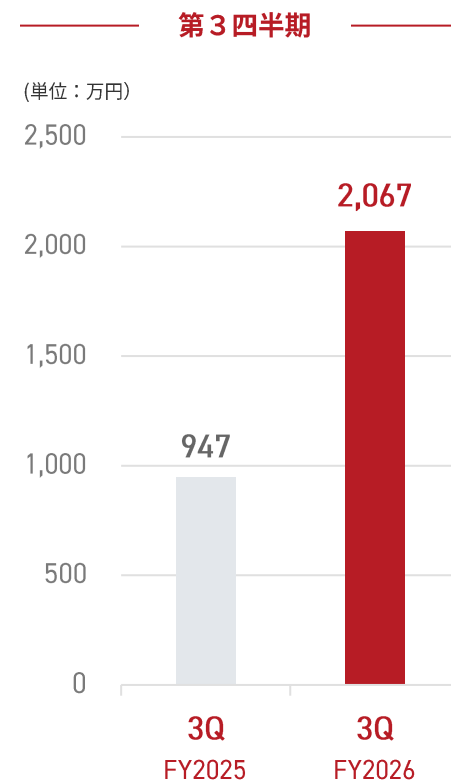
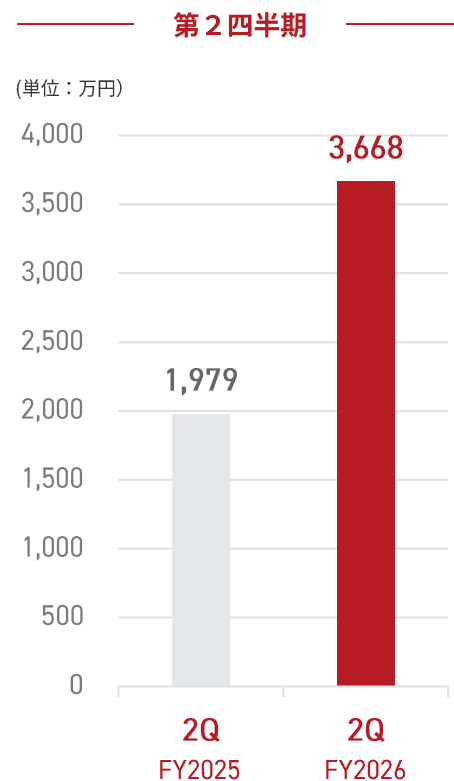
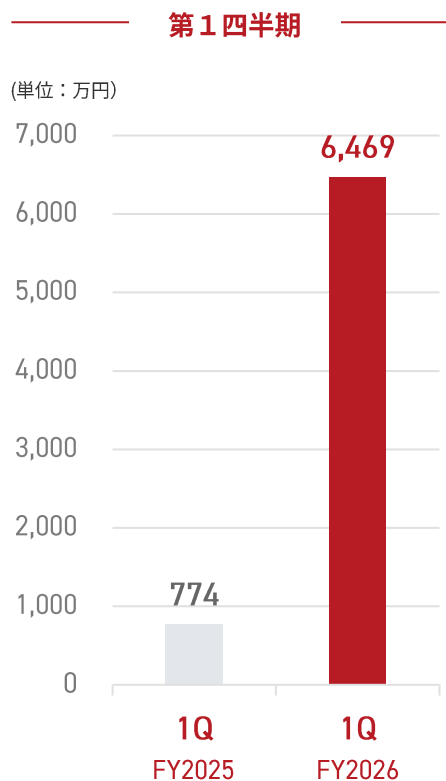
法人案件の増加により、当事業年度の空間創造事業における売上高は158,067万円（前年同期比139.8%）となった。当四半期売上高は41,294万円（前年同期比177.2%）となり、四半期売上も大幅に増加している。



※四半期財務諸表を作成していないため、2025年第1四半期の数値は参考値です。

事業転換による収益構造変化により、当事業年度の営業利益は前年同期比414.1%

当事業年度の空間創造事業における営業利益は14,498万円（前年同期比414.1%）となった。当四半期営業利益は2,293万円（前年同期は営業損失199万円）となり、引き続き収益構造の改善に取り組む。



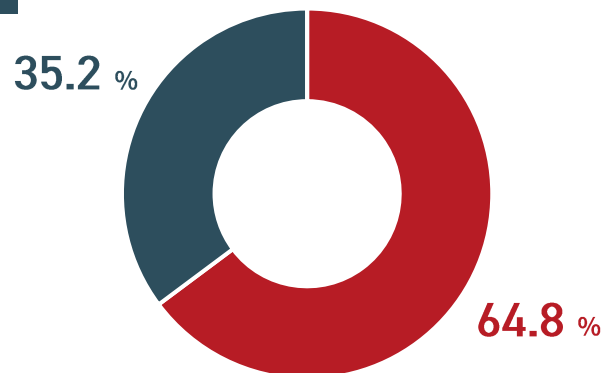
※四半期財務諸表を作成していないため、2025年第1四半期の数値は参考値です。

戦略領域 (法人) へのポートフォリオ転換が進展

高付加価値・大型案件を見込む法人領域の比率が増加、収益構造の強靭化に寄与。

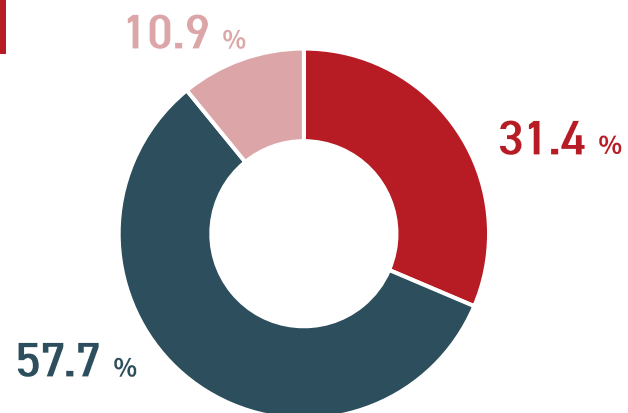
売上高構成

FY2025



■ 一般戸建外構工事	64.8 %
■ 集合住宅・商業施設の屋外工事	35.2 %
■ 公共工事・Park-PFI事業	0.0 %

FY2026



■ 一般戸建外構工事	31.4 %
■ 集合住宅・商業施設の屋外工事	57.7 %
■ 公共工事・Park-PFI事業	10.9 %

2026年2月期

DEPOS事業

FY2026 実績

セグメント業績ハイライト

売上高

79,679 万円

前年同期比 108.4 %

売上総利益

39,318 万円

前年同期比 102.3 %

営業損失

△ 2,990 万円

前年同期比 - %

TOPICS

01 展示会出展による法人取引基盤の拡大

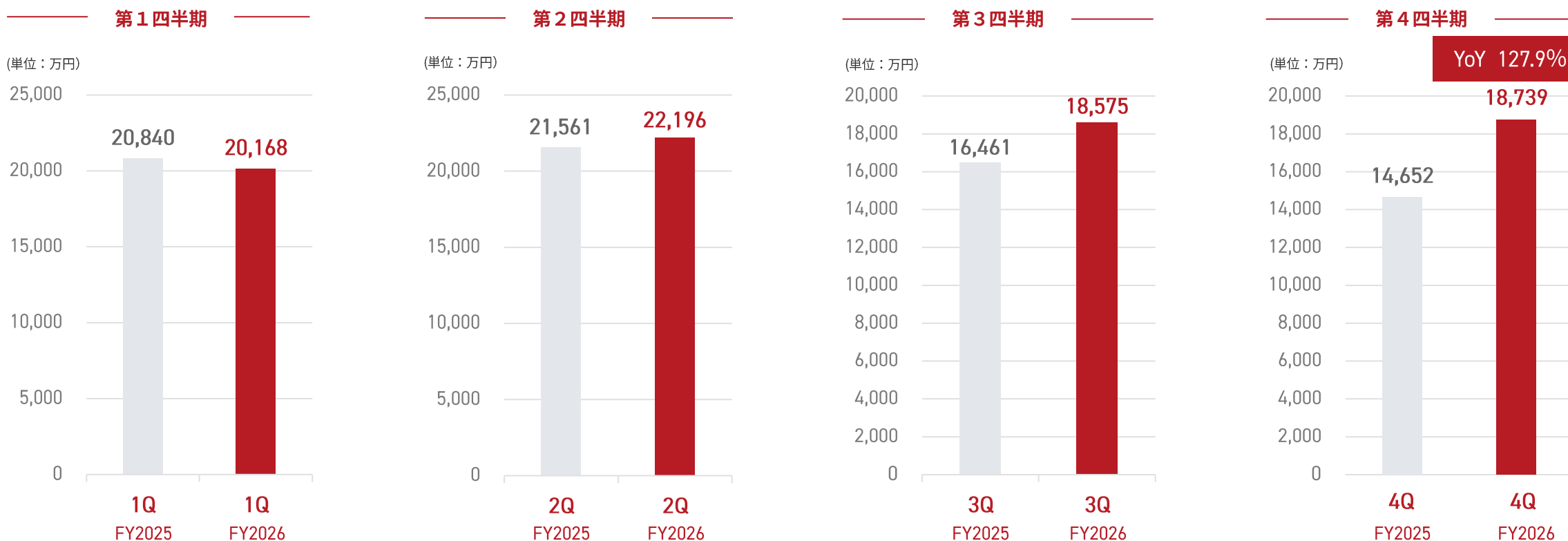
法人案件獲得に向けた先行投資として展示会出展を積極的に実施。
法人取引先の累積件数は685件となり、前年度末から185件増加。

02 先行費用、販売管理費の増加

為替影響による商品の入替、新商品の拡充に伴う広告宣伝費の増加、展示会出展費用、取引先開拓費用等の販売管理費が増加。

法人施設納品は増加基調、ECは商品入替/在庫の最適化を優先した調整局面にあり、通期売上高は横ばい

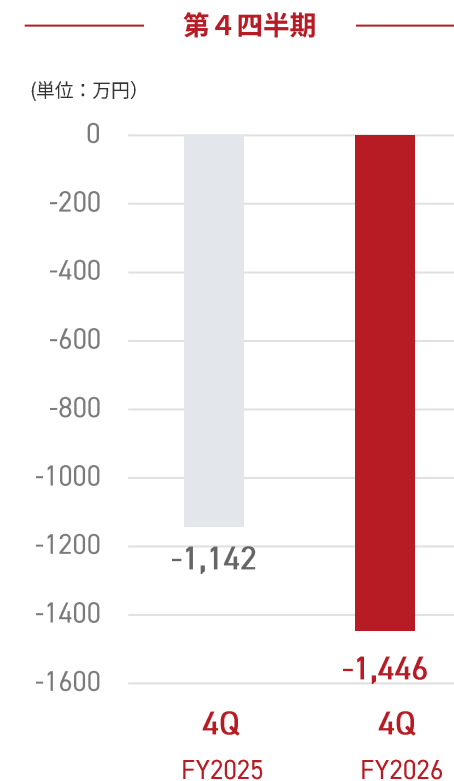
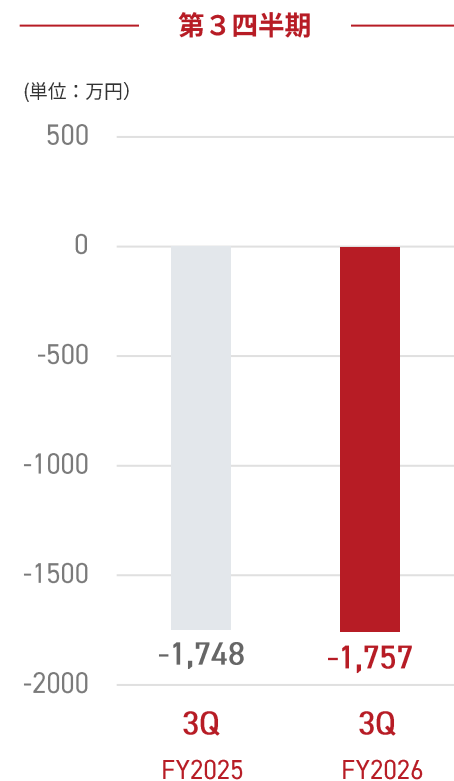
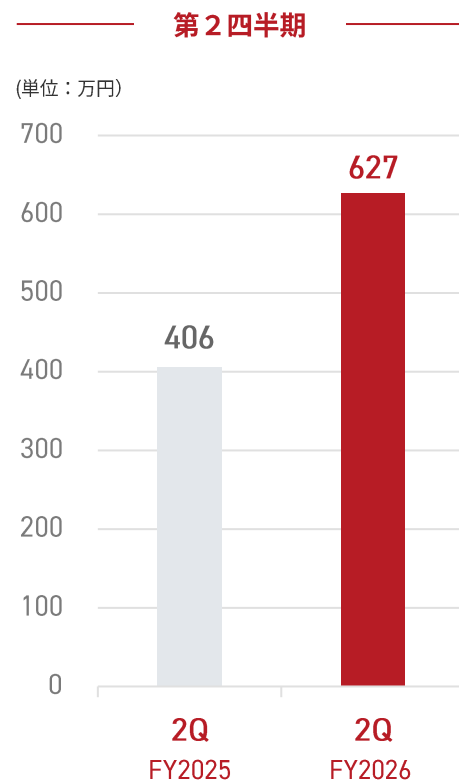
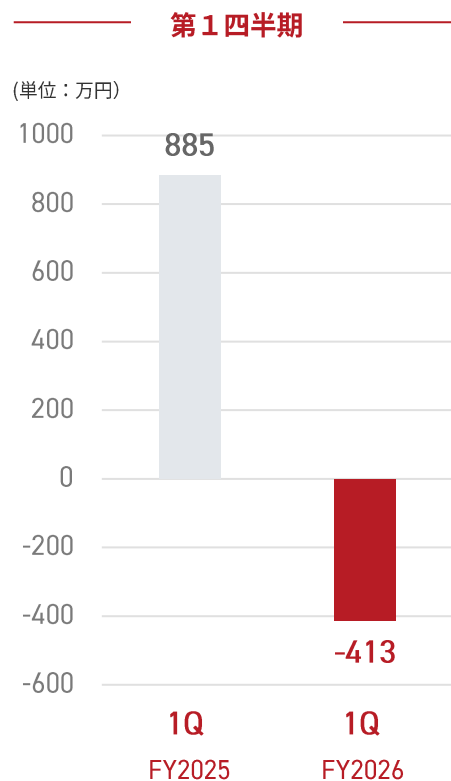
法人施設納品が増加したことにより、当事業年度のDEPOS事業における売上高は79,679万円（前年同期比108.4%）となった。当四半期売上高は18,739万円（前年同期比127.9%）となり、法人施設納品が好調に推移した一方、ECは調整局面が継続する見込み。



※四半期財務諸表を作成していないため、2025年第1四半期の数値は参考値です。

法人案件獲得に向け先行投資とした展示会出展、取引先開拓等、販売促進活動増加による露出拡大を実施

当四半期のDEPOS事業における営業損失は1,446万円（前年同期は営業損失1,142万円）となった。



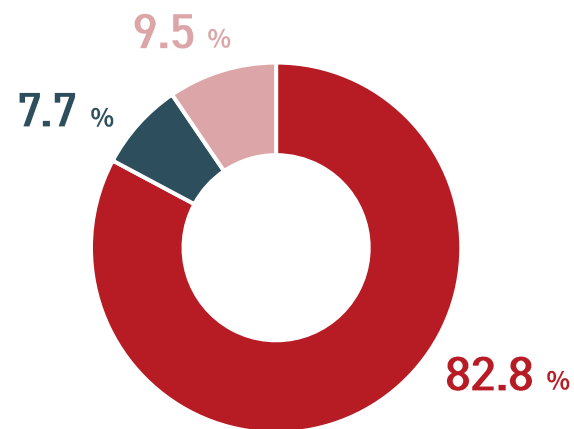
※四半期財務諸表を作成していないため、2025年第1四半期の数値は参考値です。

B2B拡大とEC最適化の同時進行

B2Bを成長ドライバーとして立ち上げながら、ECは商品/在庫を整備し次の成長に向けて準備。

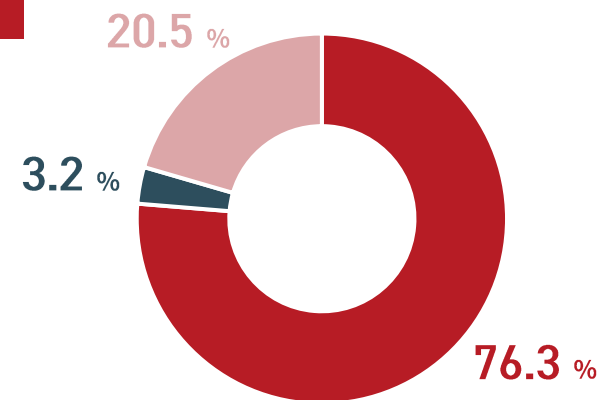
売上高構成

FY2025



■ EC (直販)	82.8 %
■ 卸 (パートナー販売)	7.7 %
■ B2B (直納)	9.5 %

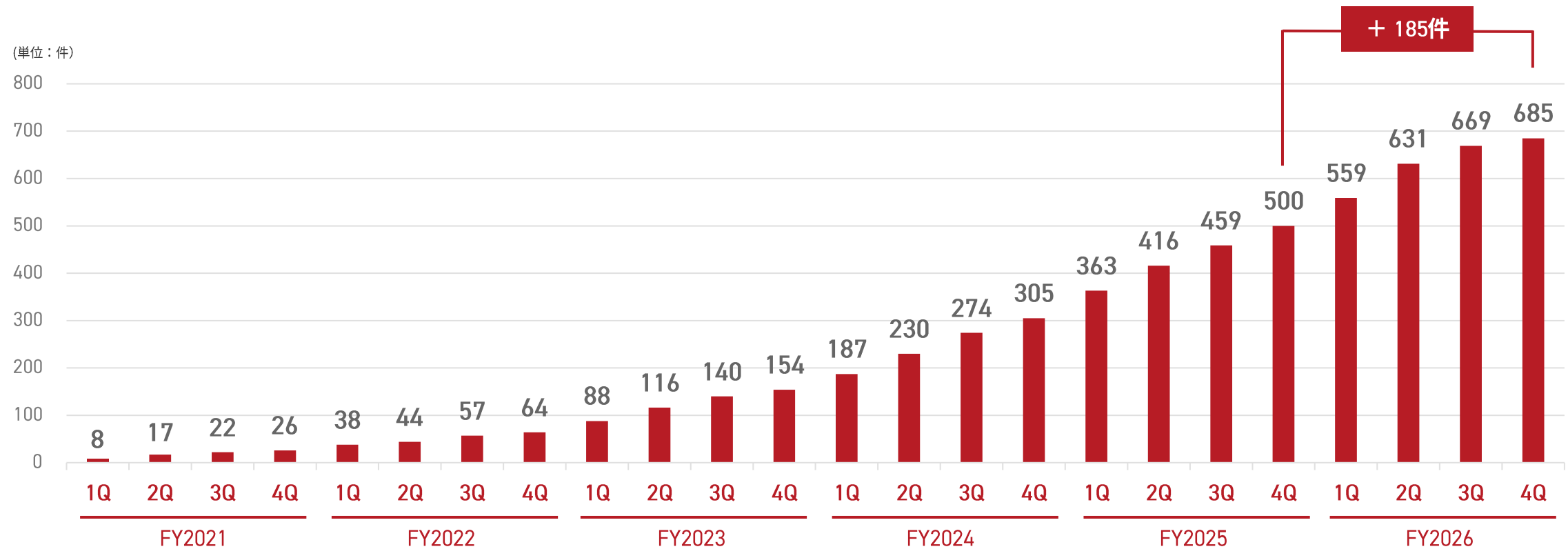
FY2026



■ EC (直販)	76.3 %
■ 卸 (パートナー販売)	3.2 %
■ B2B (直納)	20.5 %

法人取引先累積件数の増加により全体売上を押し上げ

法人取引先累積件数700件にせまる。 前期末500件から185件増と着実に増加。今後も継続した展示会出展を重ね、安定した法人案件獲得を目指す。



2027年2月期

連結業績予想

成長投資を継続し、中長期の企業価値向上を推進

2027年2月期は、連結範囲の拡大や施設開業に向けた準備が進む中、人材採用・教育体制の構築、設備投資等を継続する成長投資局面にある。

短期的には費用先行の影響を見込む一方、法人顧客基盤の拡充、両事業のシナジー創出、Park-PFI事業の推進を通じて、中長期的な企業価値向上を目指す。

(単位：万円)	2026年2月期実績	2027年2月期予想	増減額	前年同期比
売上高	237,747	259,291	21,543	117.9%
営業利益	11,508	7,953	△3,554	65.6%
経常利益	10,343	7,502	△2,841	70.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,877	3,978	△2,898	57.9%
1株当たり当期純利益	32.54	16.33	—	—

ブレイントラスト社の子会社化により、遊休不動産領域へ進出。

2026年3月、ブレイントラスト株式会社の株式70%を取得し、連結子会社化。空き家等の遊休不動産の増加という社会課題を背景に、遊休不動産の買取再販事業を新たに開始し、既存事業との連携を通じて顧客基盤の拡大と中長期的な企業価値向上を図る。

M&A概要



取得対象	ブレイントラスト株式会社
事業内容	①建築コンサルティング ②不動産仲介
取得対価	2百万円
取得比率	70.0%
実行日	2026年3月21日
形態	連結子会社化

目的

建築・不動産ノウハウの獲得

建築コンサルティングや不動産取引に関する知見を取り込み、事業の推進力を強化。

遊休不動産の再生・利活用領域への進出

空き家等を含む遊休不動産の買取再販事業を開始し、事業ポートフォリオを拡張。

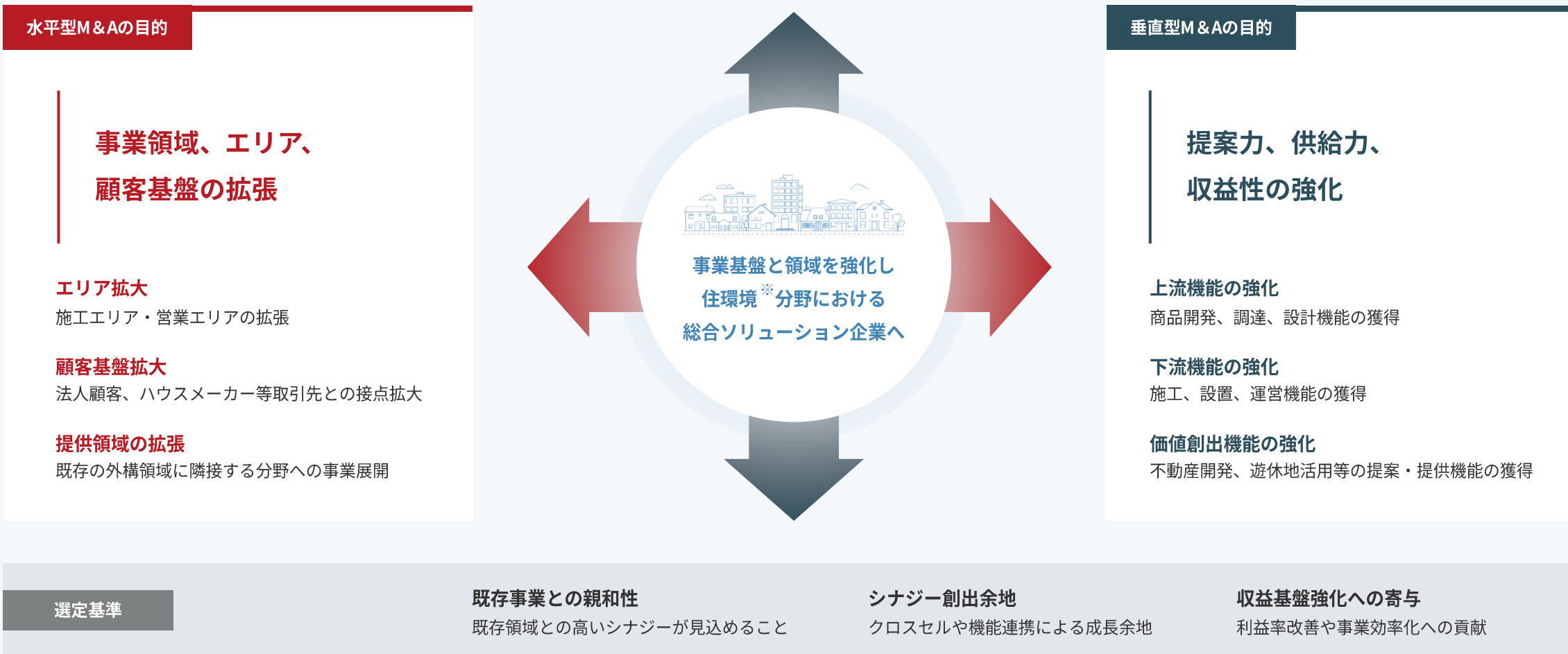
空間創造事業・DEPOS事業との連携による顧客基盤拡大

既存事業とのシナジー創出を通じて、提案機会の拡大と顧客基盤を拡充。

今後の位置づけ

- 2026年2月期業績影響は軽微
- 2027年2月期以降の連結寄与を見込む

既存事業とのシナジーを重視し、水平、垂直の両面からM&Aを推進。



※住環境：住宅に限らず、人の居住・滞在・生活を取り巻く空間的・社会的環境全般を指す。

本資料に含まれる当社の将来の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でない記述は、作成時点において入手可能な情報に基づく当社の判断による予測です。これらの記述は、既知および未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでおり、実際の業績や財務状況等は、これらの予測と大きく異なる可能性があります。

当社は、本資料に記載された将来見通しに関する情報の正確性や完全性を保証するものではありません。また、新たな情報や将来の事象等により、これらの見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の判断において行われますようお願いいたします。

 Hanwa Home's